

# 日本雨水資源化システム学会「第7回技術研修会・名古屋」のご案内

(リアルとオンラインのハイブリッド方式)

- ・日時：2026年7月27日(月) 13:00~17:00
- ・CPD単位：農業農村工学会のCPD認証プログラム4CPDの取得が可能(認定済み)
- ・場所：(株)三祐コンサルタンツ 5F会議室(オンライン参加も可能)  
〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町35-16 第一富士ビル 4F  
(名古屋市営地下鉄東山線新栄駅より北へ徒歩10分、または地下鉄桜通線、高岳駅より東へ徒歩10分、桜通り：布池交差点角)
- ・講演内容：**河川と農業水利の連携による流域治水の課題と展望**  
**—流域治水における雨水貯留・浸透・活用と農業水利の役割—**
- ・講演題目：**流域治水における雨水管理技術と農業水利連携の話題提供**
  - 13:00~13:10 挨拶 日本雨水資源化システム学会 副会長 屋井裕幸
  - 13:10~14:10 **「流域治水における雨水管理体系(流出抑制・貯留・浸透)技術」**  
講師：雨水貯留浸透技術協会 屋井裕幸
  - 14:20~15:20 **「IoT技術を組み合わせたスマート雨水タンクによる雨水活用」**  
講師：福井工業大学環境学部 笠井利浩
  - 15:30~15:45 **「流域治水における農業水利の現在地と課題」**  
講師：三祐コンサルタンツ 東京支社技術部 千頭麻子
  - 15:45~16:00 **「宮崎県南部における農地・都市排水の現在地」**  
講師：三祐コンサルタンツ 総合計画部 稲垣仁根
- ・パネルディスカッション：**「講師の意見交換と参加者による質疑応答」**
  - 16:00~17:00 **「流域治水への雨水管理技術と農業水利の協働について」**  
オーガナイザー：三祐コンサルタンツ 東京支社技術部 樽屋啓之
- ・参加費用：雨水学会正会員：無料. 非正会員：2千円(後日請求) 研修会の参加申込の際に、雨水資源化システム学会(<https://rain.jp>)に入会申し込みされた方は、今回の研修会も無料.
- ・申込み方法：①氏名、②所属、③勤務先住所、④電子メールアドレス、⑤電話番号、⑥参加方法(会場 or リモート)、⑦雨水学会会員(正会員 or 非正会員)、⑧入会(する or しらない)、⑨CPD会員番号を、[info@rain.jp](mailto:info@rain.jp)に7月15日(水)までに送信ください.
- ・CPD単位の登録：農業農村工学会の会員でCPD認証登録の申請済みの方は、本研修会の記録

を、雨水資源化システム学会が農業農村工学会の認定機構に登録いたします。農業農村工学会の技術者継続教育機構は、建設系 CPD 協議会 (<https://www.cpd-ccesa.org/>) に加盟し、建設系分野に係わる技術者の能力の維持・向上を支援しています。他団体に本研修会の CPD 記録を申請する場合は、参加申込の際にお知らせください。



問合せ先：

日本雨水資源化システム学会 稲垣仁根

(株) 三祐コンサルタンツ 総合計画部

TEL: 052-933-7801 (代表) FAX : 052-933-7893

E-mail: a03221u@cc.miyazaki-u.ac.jp

・企画意図：「農業土木の現場技術者に、流域治水の“全体像の中での自分たちの位置と課題”を見える化する」これが研修会の目的です。

一般土木側の流域治水は、河川・都市排水・森林・ため池・地下浸透・雨水貯留施設など、多層的な“流域全体のマネジメント（多主体連携）”を扱っています。農業土木側の役割は、流域治水に連携する主体の「農業水利」として、「利水ダムの活用、水田貯留、ため池等の活用、排水強化」が期待されています。

その意味では、流域治水の一般土木と農水土木の“役割分担”は、治水と農業水利（用水・排水）のように明確であります。今後は集水域から氾濫域にわたる“流域全体の協働”に向けて、流域内のネットワークの強化が課題となっています。農業水利は流域治水の中で“最も面積を持つインフラ”であり、その潜在力を示すには「田んぼ・利水ダム」以外の手段の導入が望まれます。

農業土木側の議論が“役割分担”として「田んぼダム・農業ダムの事前放流・貯留」に限定されがちな状況にあり、ネットワークの強化のためには、治水ダムと利水ダムの連携や田んぼダムだけに閉じない“異なる体系との接続”が求められます。

本研修会では、4名の講師と1名のオーガナイザーをお招きし、4課題の話題提供とパネルディスカッションによる議論と質疑を行います。

本研修会において、農業水利と都市排水・貯留の“橋渡し役”になれる講師として、雨水貯留浸透技術協会の屋井常務理事をお招きしました。屋井常務理事は、国交省の雨水管理体系（流出抑制・浸透・貯留）の当事者であり、農業土木側が「国交省の雨水管理体系や都市側の貯留・浸透技術体系」を学ぶ機会はありませんが、「自分たちの技術が、都市側の雨水管理体系とどう接続するのか」が見えるようになることを期待します。

雨水活用による持続可能な社会構築を専門とする大学研究者として笠井教授をお招きしました。都市域や島嶼地域の持続可能な街づくりには豪雨と渇水対策が不可欠となっており、笠井教授は雨水活用によって問題を解決する研究をされてきました。最近では、IoT技術を組み合わせたスマート雨水タンクの開発に取り組んでおられ、雨水活用の最新技術をご紹介します。

農業土木側からは、農業水利と河川治水の“接続点”を示して、両者の連携についての現状を紹介していただきます。

パネルディスカッションのオーガナイザーとして、元農研機構の樽屋博士をお招きし、流域治水への雨水管理活用技術と農業水利の協働について、講師の意見を整理し、農業土木側にとって視野を一段広げる機会になればと期待します。